
季節性インフルエンザワクチンによる薬剤性肺炎と考えられた 1 例

金光 禎寛、 佐渡 起克、 西原 祐美、 西川 滋人、 片山 優子、
谷村 和哉、 伏屋 芳紀、 村田真理子、 菅 理晴、 千葉 渉、
北 英夫（高槻赤十字病院呼吸器センター）

【目的】：

季節性インフルエンザワクチンの副作用で薬剤性肺炎の報告は文献を検索した範囲では 1 例で非常に稀と考えられたため報告する。

【症例】：

74 歳、男性。近医で季節性インフルエンザワクチンを接種した 15 時間後から発熱、咳嗽が出現した。近医で抗生剤投与を受けるが改善せず、胸部単純 X 線写真で両側肺炎をみとめたため接種後 5 日目に当科紹介となった。入院後 Sulbactam/ampicillin 点滴、Roxithromycin 内服を行ったが症状が持続した。接種後 8 日目に気管支鏡を行い、気管支肺胞洗浄液 (BALF) 中の細胞数増多 ($109 \times 10^4 / \text{ml}$)、好酸球増多 (16%)、リンパ球増多 (39%) を認めた。血液での薬剤リンパ球刺激試験 (DLST) は S.I 値 170% と擬陽性だったが、BALF での DLST は S.I 値 210% と陽性で田村の診断基準から季節性インフルエンザワクチンによる薬剤性肺炎と考えた。

【結論】：

季節性インフルエンザワクチン接種後から自覚症状が出現し、BALF での DLST で陽性所見が得られたことから季節性インフルエンザワクチンによる薬剤性肺炎と考えた 1 例を経験した。